

令和元年 10 月 24 日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第 3 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
2. 作物名 : -
3. 発生地域 : 紀の川市、田辺市
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本種の国内への侵入が本年 7 月に確認されたことから、本県においても侵入警戒を行っていた。県内 4 か所に設置したフェロモントラップのうち、紀の川市で 10 月 11 日に、田辺市で 10 月 15 日に、本種と疑われる成虫各 1 頭が誘殺されているのを発見した。農林水産省神戸植物防疫所にこの成虫の同定を依頼したところ、いずれも本県未発生のツマジロクサヨトウであることが 10 月 16 日に確認された。なお、県内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない。

本種は、本年 7 月 3 日に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認され、その後、九州の各県をはじめとする 19 府県のは場で発生が認められている。近隣では三重県（9 月 3 日）、大阪府（10 月 1 日）でソルガムや飼料用トウモロコシほ場において幼虫の発生が確認されている。このほか、徳島県（9 月 26 日）、兵庫県（10 月 2 日）でもフェロモントラップで成虫が捕獲されている。

5. 本種の特徴

- 1) 形態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅中央部に白斑を持つ（図 1）。終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆 Y 字状の模様の特徴である（図 2）。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

- 2) 生態

南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯を原産とする南方系の害虫であり、暖地に適応する。熱帯では年 4～6 世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散し生息域を拡大するが、暖地を除く地域では越冬することができない。

- 3) 分布

北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど）。

- 4) 加害植物

文献ではトウモロコシやイネなどのイネ科植物のほか、アブラナ科、ナス科、ウリ科など幅広い作物を加害するとされているが、国内ではこれまでのところ、飼料用ト

ウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビでのみ発生が確認されている。

5) 被害の特徴

幼虫が植物の茎、葉、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。新葉の葉鞘部を多く食害し、多量の糞が散在する。

6. 防除対策

1) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられるため、ほ場をよく見回り早期発見に努める。本種と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに農作物病虫害防除所に連絡する。

2) 県は、本種による加害が確認された場合、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。

農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-32.pdf

3) 薬剤散布が困難な場合は、被害作物を早期に刈り取るとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場内での残渣のすき込みを行う。



図1. 成虫(左:雄、右:雌) 農林水産省 HP より



図2. 幼虫 農林水産省 HP より

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300